

第5回 CIEC サタデーカフェ

開催概要

開催日:2021年9月18日(土)20:00~21:00

会場:Zoom によるオンライン開催

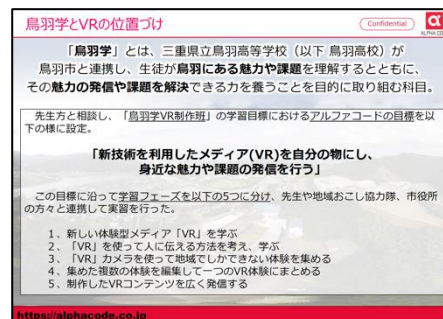
プログラム

20:00 - 20:15 【 話題提供 】

スピーカー: 黒田昌志(三重県立鳥羽高等学校教諭),
水野拓宏(株アルファコード代表取締役 CEO 兼 CTO)

テーマ:「高校生が「海女」の魅力をVR映像を制作・発信するまで」

20:15 - 21:00 【 フロアとのフリーディスカッション 】



第5回 CIEC サタデーカフェはVR(仮想現実)映像を用いた教育をテーマに、三重県立鳥羽高校の黒田先生と(株)アルファコードの水野様による話題提供で始まりました。水野氏はVRをメディアとして促進させるために、社会の様々な方と連携して活動されており、今回は教育とVRの連携という形での話題提供をいただきました。鳥羽高校では、地域の魅力を発信する「鳥羽学」に取り組んでおり(高2開講授業・週2単位)、その活動の中で今回、VRを活用される事になりました。まずは、VR技術の可能性を知ってもらうために、生徒への体験会を実施。さらにVRを用いての体験を他人に伝えるための企画方法を学ぶというレクチャーをされました。この技術を使って鳥羽の魅力的な映像(ここでは海女さんへのインタビューや海中での映像)を、あたかも鳥羽に来てもらったかのように感じられるようにVRカメラで撮影し、それを生徒たちだけで編集するという授業です。最後に東京にある三重県アンテナショップにて、多くの方々に前にして発表会が行われました。黒田氏は先生としてはほぼノートタッチで、生徒主体での活動だったと話されました。特筆すべきことは、この授業の目標が、活動を通して生徒たちが変わっていくということ、つまり、VRのことで水野氏と出会うことや、インタビューで海女さんと出会うことなどを通して、鳥羽の魅力を発信するとはどういうことなのかを考えるようになること、さらに、この授業の本質を理解するようになってくれることであるということです。実際に、この活動を通して物事を深く考えてくれる生徒も現れ、成長や自主性が見られ始めたことが成果として語っていただきました。

この話題提供をもとに、フロアを交えてのディスカッションが行われました。「鳥羽学」の授業の基本情報などを伺ったあと、感想として挙げられたのが、高2がVR映像を撮影から編集までできるというのがすごいということ、水野氏は以前からVRの取り組みをしていたが、漸く時代が追いついてきたのかという感想を漏らしていた。機器も安価になり、VRカメラが約5万円、編集ソフト等は無料で、VRゴーグルなしでも見ることができるシステムになっているようです。実際、この授業では水野氏より行われた授業は4時間ほどで、あとは生徒が自主的に活動をし、プロジェクトとしては5ヶ月ほど取り組みます。その間、黒田先生は、撮り方やテクニックなどではなく、コンセプトが大切だという視点を欠かすように心がけておられたようです。例えば、生徒たちに常に「君たちのコンセプトは何?」、「この映像で自分たちのコンセプトが伝わってる?」という問いかけを繰り返しているとのことでした。そのためか、生徒たちは、VR映像そのものよりも地域そのものに魅力を感じるようになり、「どのようにすればこの映像を多くの人に人たちにってもらえるんだろう。」と考える生徒も現れてきているようです。この「鳥羽学」の授業を通して、そういったことを伝えたいとおっしゃったことが印象的でした。また、VRカメラと教育を結びつけるには、どのような事例が考えられるかという話題になり、自分の授業を1時間VRカメラで撮影して、それをいろいろな視点で見ることで授業改善を行うことや、学校案内ビデオをVRカメラで撮影し、あたかもそこにいるような感覚で見てもらえる映像を配信することなどが挙げられました。VRカメラは1人称になれるのが特徴で、そこが普通のビデオカメラとは全く違うところだと水野氏は話しておられました。

今回は約17名の参加で、世話人以外の登壇者としては初のサタデーカフェだった。話だけ聞いていると実際に見てみたくなる参加者も多く、「VRカメラを使ったワークショップもコロナ禍が治まれば開催してほしい。」という声も聞かれ、今後の研究会へつながる大きなはずみとなりました。今回のスピーカーである黒田先生、水野様、またご参加頂いた多くの方々にこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。(文責:平田義隆)